

ホンダ、インドネシア市場低迷で 2015 年のアジア

二輪車

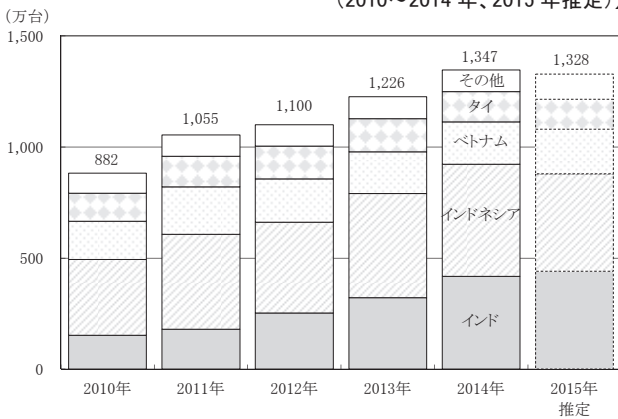
ホンダのアジア二輪車事業は、2015 年に販売台数が減少したことなどで、今後の供給体制に変化が生じる可能性がある。これまでホンダは、地産地消を軸にアジア各国で能力増強を続けてきた。インドやパキスタンなどでは拡大戦略が今後も継続される見通しであるが、需要拡大が踊り場を迎えた ASEAN では、生産能力の活用を目的とした供給の最適化が進むとみられる。

ホンダのアジア(日本、中国を除く主要 6 カ国)における 2015 年の二輪車販売台数は、前年比 2%減の 1,300

万台強と推定される。ASEAN 最量販国のインドネシアでの市場低迷が直撃したことで、ホンダの販売も減少に転じた模様である。2016 年以降は、インド市場などにけん引され再び拡大に転じると見られるが、1,700 万台超の生産能力について、特にインドネシアやベトナムなど、ASEAN 域内での余剰能力の解消が課題となる。

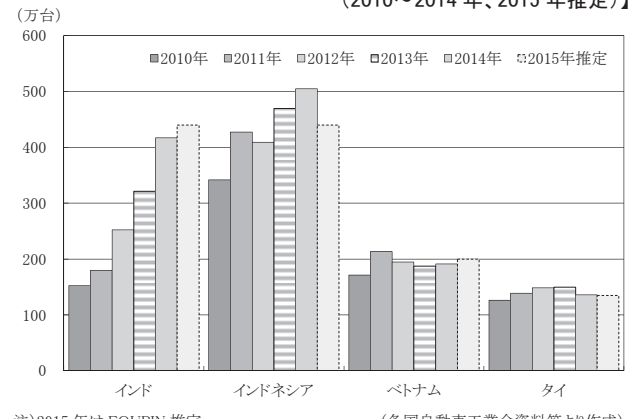
インドネシアでは、ホンダは二輪販売を前年比 12.9%減の 440 万台に減らしたと推定される。2014 年に販売 500 万台を達成したこともあり、2014 年末には Karawang

【ホンダ、アジア 6 カ国二輪車販売台数の推移 (2010~2014 年、2015 年推定)】



注)その他は、パキスタンとフィリピンの 2 カ国。2015 年は FOURIN 推定。
(各国自動車工業会資料等より作成)

【ホンダ、アジア主要 4 カ国二輪車販売台数の推移 (2010~2014 年、2015 年推定)】



注)2015 年は FOURIN 推定。
(各国自動車工業会資料等より作成)

【ホンダ、アジア 6 カ国二輪車販売台数 (2010~2014 年、2015 年推定)】

(単位:台)

国	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年推定	(前年比)
インド	1,525,188	1,797,052	2,522,573	3,211,613	4,172,713	4,400,000	(5.4%)
市場シェア	13.5%	13.8%	18.3%	22.4%	26.1%	27.2%	(1.1pts.)
パキスタン	518,368	597,976	614,464	634,921	621,664	750,000	(20.6%)
市場シェア *1	69.6%	72.2%	78.3%	83.7%	88.9%	93.8%	(4.8pts.)
インドネシア	3,416,049	4,273,888	4,088,888	4,696,999	5,051,100	4,400,000	(▼12.9%)
市場シェア	46.2%	53.1%	57.3%	60.4%	63.9%	65.7%	(1.8pts.)
ベトナム	1,713,000	2,132,000	1,948,000	1,870,000	1,911,000	2,000,000	(4.7%)
市場シェア	55.8%	59.9%	62.7%	67.0%	70.5%	71.4%	(0.9pts.)
タイ	1,259,882	1,385,323	1,485,312	1,493,364	1,356,752	1,350,000	(▼0.5%)
市場シェア	68.2%	69.0%	69.7%	74.5%	79.7%	81.3%	(1.6pts.)
フィリピン	390,196	359,431	339,122	355,263	358,345	380,000	(6.0%)
市場シェア *2	51.4%	49.2%	48.3%	47.2%	45.3%	45.8%	(0.4pts.)
二輪車販売合計	8,822,683	10,545,670	10,998,359	12,262,160	13,471,574	13,280,000	(▼1.4%)

注)2015 年は FOURIN 推定。*1:パキスタン市場シェアは、PAMA(現地自動車製造者協会)加盟メーカーの販売台数を総市場として計算しているが、非加盟の中国系メーカーなどを含んだ場合の 2015 年のシェアは 50%程度と推定される。*2:フィリピン市場シェアは、MDPPA(二輪車開発計画参加社協会)加盟メーカーの販売台数を総市場として計算しているが、非加盟の中国系メーカーが多数存在する点に留意する必要がある。
(各国自動車工業会資料等より FOURIN 作成)

【ホンダ、アジア主要 4 カ国二輪車生産・輸出台数 (2010~2014 年、2015 年推定)】

(単位:台)

	国	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年推定	(前年比)
生産	インド	1,619,174	1,914,003	2,659,716	3,395,122	4,359,651	4,570,000	(4.8%)
	パキスタン	518,477	598,240	615,264	634,953	621,020	750,000	(20.8%)
	インドネシア	3,417,378	4,254,012	4,077,000	4,685,580	5,052,600	4,700,000	(▼7.0%)
	タイ	1,337,260	1,401,819	1,788,171	1,722,741	1,470,511	1,470,000	(▼0.0%)
輸出	インド	93,720	116,370	135,159	156,851	190,426	197,000	(3.5%)
	インドネシア	n.a	n.a	n.a	n.a	4,410	30,000	(6.8倍)
	タイ	58,904	111,838	159,930	165,227	129,861	177,000	(36.3%)

注)完成車(CBU)のみ。
(各国自動車工業会資料等より FOURIN 作成)

販売は失速、ASEANの余剰能力の活用が課題

Motorcycles

県の第4工場の能力増強を決定。年産50万台のスポーツバイク専用の生産ラインを2015年内に稼働する予定であったが、市場の低迷などを受け生産開始が2016年にずれ込んだとみられる。市場回復の道筋が不透明な中、2015年9月にHondaは本格的な輸出開始を表明。これまでは生産のほぼ全量を内需向けとしてきたが、BeAT eSPのフィリピンへの輸出開始を皮切りに、今後は生産の一部を輸出でまかなう方針である。

生産の維持・拡大に向けた供給再編は、ベトナムとタ

イでも進んでいる。ベトナムでは、販売台数が200万台規模で停滞していることに加え、排気量50ccスクーターDunkとTactの生産を2016年にも日本国内に移管することが決まっており、生産能力の有効活用が急務となっている。こうしたなかでベトナムでは、これまでの欧州向け輸出に加え、ミャンマーなどへの輸出拡大が検討されている。すでに輸出拠点となっているタイでは、欧州向けの大型バイクなど、ASEAN域外への輸出についても拡大する考えである。

【ホンダ、アジアにおける主な二輪車事業動向】

▽インドネシア

<生産関連>

- 2016年以降、第4工場(Karawang県)で新ラインが稼働予定。
-スポーツタイプ専用ラインを増設し、既存の第2工場で生産するCBR150Rなどのスポーツ車の生産を新ラインに集約する考え。
- 投資額は1.9兆ルピアで、1,500人を新規雇用する計画。
- 新ラインの年産能力は50万台。これにより、インドネシアでの生産能力は580万台に拡大する。
- 当初計画では2015年中の稼働を予定していたが、市場低迷の影響で計画が遅延している可能性がある。

<販売関連>

- 2015年8月、スポーツバイク市場でシェア1位を目指すと発表。
- 同セグメントにおける2014年のHondaのシェアは31%で2位。今後、シェアを40%以上に引き上げ首位とする目標を掲げた。

<主な製品投入>

- 2015年2月、AT車(スクーター)の新型BeAT eSPを発売。
- 2015年秋、CBR1000RRなど高価格帯スポーツ車を6車種投入。

<輸出関連>

- 2015年5月、BeAT eSPのフィリピン向け輸出を開始。
- 輸出規模は、2015年に3万台、2016年に5万台を計画。
- これまでインドネシア拠点からは東ティモール向け以外に輸出を行っていなかったが、これを機に輸出を本格的に開始。

▽タイ

<販売関連>

- 2015年通年の販売目標は、年初時点で139万台としていたが、市場の落ち込みを受け、年央までに132万台と下方修正した。
- 大型バイク専門特約店Honda Big Wingを、2015年中に3カ所追加して、10カ所に拡大したとみられる。

<主な製品投入>

- 2015年1月、量販モデルのClick 125iの新型車を投入。
- 2015年7月、量販スクーターのZoomer-Xを一部改良して発売。

▽ベトナム

<生産関連>

- 2014年11月、年産50万台の第3工場が本格稼働した。
- これにより、ベトナムの生産能力は250万台に拡大。
- 2016年以降、日本向けに輸出している排気量50ccスクーターのDunkとTactの生産を、日本の熊本製作所に移管する計画。
- エンジンについては、引き続きベトナムで生産する方針。

<販売関連>

- 2016年3月期の販売目標を190万台と設定。
- 2015年央時点の販売店数(正規ディーラー)は約700カ所。

<輸出関連>

- 2014年の輸出実績は約4万台。主に、50ccのスクーターを日本向けに、100cc超のスクーターを欧州向けに輸出。
- 2015年の輸出目標を前年比倍増の10万台と設定。
- 今後、ミャンマーやラオスなど新興市場向けを増やす方針。

▽フィリピン

- 2015年1~11月のモデル別販売台数は、アンダーボーンのXRMシリーズが前年比7%減の9万9,102台、バックボーンのTMX 125 Alphaが7.3倍の9万5,442台となった。
- TMX 125 Alphaは2014年10月の投入。
- 両モデルが同期間における国内販売で1~2位を占めた模様。
- 2015年央時点の販売店数(専売店)は約470カ所。

▽マレーシア

<販売関連>

- 2016年の販売目標を前年比2割増となる12万台と設定。
- 2015年販売台数は10万台弱となったとみられる。

<主な製品投入>

- 2015年4月、主力の小型カブEX5 Dream FIを投入した。
- 2015年11月、最廉価車としてWave Alphaを新規投入。
- 2016年には4モデルの製品投入を計画する。

(ホンダ広報資料、各種報道より作成)

【ホンダ、タイ車種別二輪車生産・販売・輸出台数(2010~2014年、2014/2015年1~11月)】

(単位:台)

	車種	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2014年 1~11月	2015年 1~11月	(前年 同期比)
		生産	モペッド 1,325,693 スポーツ 11,567 計 1,337,260	1,324,148 77,671 1,401,819	1,697,025 91,146 1,788,171	1,559,633 163,108 1,722,741	1,247,900 222,611 1,470,511	1,150,346 202,982 1,353,328	1,143,938 212,690 1,356,628
販売	AT(スクーター)	539,616	575,729	636,600	605,981	492,766	459,786	430,158	(▼6.4%)
	市場シェア	57.0%	59.1%	59.9%	68.2%	75.7%	75.8%	77.9%	(2.0pts.)
	ファミリー	701,574	794,584	828,302	812,814	751,817	699,537	682,379	(▼2.5%)
	市場シェア	82.8%	82.5%	83.7%	84.5%	87.2%	87.4%	89.5%	(2.1pts.)
	その他	18,692	15,010	20,410	74,569	112,169	102,193	139,502	(36.5%)
市場シェア	35.3%	21.4%	26.0%	48.5%	59.3%	58.6%	69.3%	(10.7pts.)	
計	1,259,882	1,385,323	1,485,312	1,493,364	1,356,752	1,261,516	1,252,039	(▼0.8%)	
輸出	CBU	58,904	111,838	159,930	165,227	129,861	117,790	160,440	(36.2%)
	CKD	545,863	812,406	422,855	477,920	509,977	467,033	443,009	(▼5.1%)
	計	604,767	924,244	582,785	643,147	639,838	584,823	603,449	(3.2%)

(TAIA資料より作成)

二輪車

インドでの販売規模は、2015年に5.4%増の440万台となり、インドネシアと並ぶ最量販国となった。農村部での需要減少を受けモーターサイクル販売は減少したが、スクーター市場では台数、シェアともに拡大が続いた。ホンダは新工場の稼働と既存拠点の能力増強で、インドでの生産能力を、現行の460万台から2016年末までに640万台に引き上げる方針で、2016年3月期の投資予定額177億5,000万ルピーの大半を設備投資に振り向ける。開発面では、2015年1月に製品開発の決定権を

日本から現地の開発法人に移管した。現地開発車の第1弾として、最量販モデル Aactiva の大幅改良車を数年内に投入する計画である。

パキスタンやバングラデシュなど、今後の市場拡大が見込まれる国でも、生産能力の増強が進む見通しである。パキスタンでは、2018年度末までの3年間で生産能力を現行の75万台から135万台に拡大する。バングラデシュでも、2020年度までに年産10万～20万台の新工場を建設するとみられる。

(堀井)

【ホンダ、アジアにおける主な二輪車事業動向】(つづき)

▽インド

<目標>

- ・2016年3月期の販売目標を470万台と設定(2015年5月発表)。
- ・2020年までに、年間販売台数1,000万台の達成を目指す。

<投資計画>

- ・2015年12月までのインドへの累計投資額は780億ルピー。
- ・2016年3月期の投資予定総額は177億5,000万ルピー。
- 投資の大半を生産能力増強に充て、2016年末までにインドの生産能力を2015年時点の460万台から640万台に引き上げる。

<生産関連>

- ・2016年1月末、第4工場が新たに稼働する予定。
- 新工場は Gujarat 州 Ahmedabad に立地。敷地面積は80万㎡。
- 年産能力は120万台(組立ライン2本)。スクーターを生産する。
- 投資額は約110億ルピーを計画。
- ・2016年中に、既存の第3工場(Karnataka州)の増産を計画。
- 生産ラインを1ライン増設し60万台分の能力を増強することで、年産能力は現行の180万台数から240万台に拡大する。
- 投資額は58.5億ルピーを予定する。

<販売関連>

- ・2015年3月末時点の新車販売店数は約3,800カ所。
- 2016年3月期に800カ所を追加し、4,600店体制とする方針。
- ・2015年1月時点の正規の中古車販売店(Best Deal)の拠点数は11州60カ所で、2016年初までに100カ所に拡大する方針。
- Best Dealの年間販売は約2万台(2015年1月時点)。

<主な製品投入>

- ・2016年3月期に新製品9モデルを投入する方針。
- ・2015年1月、モーターサイクルCB Unicorn160を新規投入した。
- ・2015年2月、最量販車 Aactiva の第3世代モデルを投入。
- ・2015年7月、エントリーモデル Livo を新規投入。
- ・2015年8月、高級大型バイク CBR650F を新規投入した。

<開発関連>

- ・2015年1月、開発の決定権を日本から現地の開発法人に移管。
- 第1弾として数年内に Aactiva の大幅改良車を開発する方針。
- 2016年3月期までに、強度試験装置などの設備拡充を実施。
- 2017年3月期末までに、開発人員を現行の100人から130人に増員する計画。

▽パキスタン

- ・2015年11月、Sheikhupura工場(Punjab州)の生産能力を倍増すると発表。
- 2016年10月をめどに1ラインを増設し稼働する計画で、その後段階的に増産を進め、2018年度末までの3年間で同工場の年産能力を現行の60万台から120万台に拡大する計画。
- 設備投資と体制強化を含む3年間の総投資額は5,000万米ドルで、1,800人の新規雇用を予定している。
- これにより、Karachi工場(年産15万台)と合わせたパキスタンにおける年産能力は75万台から135万台に拡大する。

▽バングラデシュ

<生産関連>

- ・2020年度までに、新工場を建設する計画。
- 新工場の年産能力は最大で20万台とする方針で、投資額は約20億円を予定しているとみられる。
- 2013年10月から、年産能力8万台の Gazipur 工場、CKDキットをインドから輸入して組立生産を行っているが、新工場の完成後は新拠点に生産を集約する方針。

<販売関連>

- ・2017年までに年間販売8万台を目指す(2014年発表)。
- 2014年の販売台数は約1万台。
- 高価格帯モデルについてはインドから輸入している。
- ・2017年をめどに、販売店を70カ所とする方針。
- 2015年末時点の販売店数は約30カ所とみられる。

▽台湾

- ・2015年4月、台湾に再参入し、大型バイクの販売事業を開始。
- 販売するのは大型バイクのみで、2015年末時点で、日本から輸入する6車種(NC750D、CB1100EX、NC750X、GL1800C、CTX1300、CTX700N)と、タイから輸入する3車種(NSS300、CBR650F、CBR500R)の計9モデルを展開している。
- 販売店は、台北市、桃園市、台中市、高雄市の4カ所。
- 初年度の販売目標は1,200台で、今後、大型二輪車市場においてシェア15%の獲得を目指す。
- 2003年に台湾での二輪車事業より撤退してから12年ぶりの再参入となった。

(ホンダ広報資料、各種報道より作成)

【ホンダ、インド車種別二輪車生産・販売・輸出台数(2010～2014年、2014/2015年1～11月)】

(単位:台)

	車種	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2014年 1～11月	2015年 1～11月	(前年 同期比)
生産	スクーター	895,029	1,101,178	1,473,388	1,759,501	2,454,463	2,235,226	2,627,885	(17.6%)
	モーターサイクル	724,145	812,825	1,186,328	1,635,621	1,905,188	1,755,650	1,554,628	(▼11.5%)
	計	1,619,174	1,914,003	2,659,716	3,395,122	4,359,651	3,990,876	4,182,513	(4.8%)
販売	スクーター	882,309	1,083,441	1,432,260	1,716,140	2,370,341	2,161,876	2,557,331	(18.3%)
	市場シェア	45.3%	45.3%	49.4%	51.1%	54.9%	54.8%	56.9%	(2.1pts.)
	モーターサイクル	642,879	713,611	1,090,313	1,495,473	1,802,372	1,680,992	1,466,687	(▼12.7%)
	市場シェア	7.4%	7.2%	10.8%	14.6%	16.5%	16.6%	15.0%	(▼1.6pts.)
	計	1,525,188	1,797,052	2,522,573	3,211,613	4,172,713	3,842,868	4,024,018	(4.7%)
輸出	スクーター	12,829	17,793	40,875	42,723	79,191	72,937	74,955	(2.8%)
	モーターサイクル	80,891	98,577	94,284	114,128	111,235	98,731	102,919	(4.2%)
	計	93,720	116,370	135,159	156,851	190,426	171,668	177,874	(3.6%)

(SIAM 資料より作成)

Motorcycles

【ホンダ、アジア二輪車生産拠点一覧】

国	現地製造会社 [略称]	稼働 (設立)	工場 (所在地)	主な生産品目	生産能力	備考・動向
インド	Honda Motorcycle And Scooter India [HMSI] (100%)	2001年 (1999年)	第1工場 (Haryana州)	Activa, Dio, Aviator, CB Unicorn 160, CB Shine, CBR250R, CBR650R	160万台	・敷地面積 21 万㎡。
		2011年	第2工場 (Rajasthan州)	Activa, CB Shine	120万台	・敷地面積 24 万㎡。
		2013年	第3工場 (Karnataka州)	Activa, CB Shine	180万台 →240万台(予定)	・敷地面積 39 万㎡。
		2016年	第4工場 (Gujarat州)	スクーター	120万台(予定)	・敷地面積 21 万㎡。
パキスタン	Atlas Honda [AHL] (35%)	1964年 (1962年)	Karachi工場	CD70	15万台	
		1982年	Sheikhupura工場	CD70, CD Dream, Pridor, CG125, Deluxe	60万台 →120万台(予定)	・敷地面積 10.7 万㎡。
バングラデシュ	Bangladesh Honda [BHL] (70%)	2013年 (2012年)	(Gazipur県)	CD80, Dream Neo, CB Shine	8万台	・敷地面積 8,700 ㎡ ・建屋面積 2,100 ㎡
インドネシア	Astra Honda Motor [AHJ] (50%)	1971年	第1工場 (Jakarta市)	Supra125, Supra125 Helm-In, BeAT	100万台	・カブ、AT車(スクーター) を生産。
		1996年	第2工場 (Jakarta市)	Revo, Blade125, Mega Pro, Verza, CB150R, CBR150R	100万台	・カブ、スポーツタイプを生 産。
		2005年	第3工場 (Bekasi県)	BeAT, Vario110, Vario125, Scoopy, Spacy	220万台	・敷地面積 30 万㎡。 ・スクーターを生産。
		2014年	第4工場 (Karawang県)	Vario125, BeAT	110万台 →160万台(予定)	・建屋面積 2.2 万㎡。 ・AT車(スクーター)を生産。
ベトナム	Honda Vietnam [HVN] (70%)	1997年 (1996年)	第1工場 (Vinh Phuc省)	Wave RSX, Blade	100万台 (2直)	・敷地面積 46 万㎡。 ・建屋面積 4.4 万㎡。
		2008年	第2工場 (Vinh Phuc省)	Air Blade, Lead, SH125/150, PCX, Vision, SH-mode, Blade, Dream, Wave Alpha	100万台 (2直)	・第1工場の敷地内に立地。 ・建屋面積 6.9 万㎡。
		2014年	第3工場 (Ha Nam省)	Air Blade	50万台	・敷地面積 27 万㎡。 ・建屋面積 5.1 万㎡。
タイ	Thai Honda Manufacturing [THM] (83%)	1967年 (1965年)	(Bangkok)	Wave110i/125i, Wave110i AT, Click, Air Blade, Scoopy, CBR150R, PCX, CBR250R, CB500, CB650 シリーズ	170万台	
フィリピン	Honda Philippines [HPI] (99.6%)	1983年 (1983年)	(Bantangas州)	XRM, Wave/110/125, BeAT, CBF110, GL150(Supremo), CGX125	50万台	・敷地面積 20 万㎡。 ・建屋面積 4.2 万㎡。
マレーシア	Boon Siew Honda [BSH] (51%)	2009年 (2008年)	(Penang州)	Wave Dash, Wave Alpha, Future, EX5 Dream FI, Spacy, Air Blade	30万台	・敷地面積 23.7 万㎡。 ・建屋面積 4.4 万㎡。
カンボジア	(委託)	1998年頃	(Phnom Penh)	Dream	n.a.	・NCXに生産を委託

注)現地製造会社欄の()内パーセンテージは、ホンダの出資比率。

(ホンダ広報資料、各種報道より作成)

【ホンダ、インドモデル別二輪車生産・販売台数(2014年、2014/2015年1~11月)】

▽生産

(単位:台)

モデル	2014年	2014年 1~11月	2015年 1~11月	(前年 同期比)
スクーター				
Activa	2,102,841	1,917,366	2,238,113	(16.7%)
Dio	220,358	197,769	281,692	(42.4%)
Aviator	131,264	120,091	108,080	(▼10.0%)
モーターサイクル				
CB Shine	882,311	816,975	762,252	(▼6.7%)
Dream	614,291	557,309	414,377	(▼25.6%)
CB Unicorn 160	-	-	160,882	(-)
Livo	-	-	87,322	(-)
CB Trigger	77,963	71,100	39,343	(▼44.7%)
CB Twister	55,866	51,336	30,360	(▼40.9%)
CB Unicorn	229,909	217,295	29,582	(▼86.4%)
CBF Stunner	28,879	27,482	13,444	(▼51.1%)
CBR 150R	10,105	8,907	10,507	(18.0%)
その他	5,864	5,246	6,559	(25.0%)
自動車生産合計	4,359,651	3,990,876	4,182,513	(4.8%)

▽販売

(単位:台)

モデル	2014年	2014年 1~11月	2015年 1~11月	(前年 同期比)
スクーター				
Activa	2,085,835	1,904,956	2,235,012	(17.3%)
Dio	158,105	140,386	216,249	(54.0%)
Aviator	126,401	116,534	106,070	(▼9.0%)
モーターサイクル				
CB Shine	872,894	810,455	748,443	(▼7.7%)
Dream	614,280	571,750	415,285	(▼27.4%)
CB Unicorn 160	-	-	156,420	(-)
Livo	-	-	71,447	(-)
CB Unicorn	220,332	209,836	28,750	(▼86.3%)
CB Trigger	45,745	42,528	15,746	(▼63.0%)
CBF Stunner	20,916	20,242	10,665	(▼47.3%)
CBR 150R	9,919	9,068	10,426	(15.0%)
CB Twister	16,121	15,089	5,989	(▼60.3%)
その他	2,165	2,024	3,516	(73.7%)
自動車販売合計	4,172,713	3,842,868	4,024,018	(4.7%)

(SIAM 資料より作成)